



DJILレポート No.134+135 合併号 20240331

藤沢市文書館を考える会、1月24日 文書館見学会開催

藤沢市文書館の見学会参加記

中元 幸二

2024（令和6）年1月24日藤沢市文書館の見学会が行われました。見学会は、『藤沢市民会館等再整備基本構想』（令和4年6月、藤沢市、以下『基本構想』と略記）によって出された藤沢市文書館の今後のあり方を考えていくために催されました。

『基本構想』によれば、①藤沢市民会館・②南市民図書館・③市民ギャラリー・④常設展示室・⑤青少年会館・⑥市民活動推進センター・⑦文書館・⑧生涯学習室の8施設を集合した新たな複合化施設を建設するとし、文化・芸術・歴史などの多種多様な施設の集合体として構想されています。しかし、その場所は、境川の高潮洪水想定区域に位置していて、特に②図書館・⑦文書館の立地場所としては、想定される洪水などの災害から遠ざけること、保存環境として湿度を避けることなどからみると、適切ではないのではないかと考えられる場所です。

藤沢市文書館の位置は、高台で、藤沢駅や藤沢市役所まで徒歩8分程度の距離にあり、とても利用しやすい場所と言えます。開館は1974年（昭和49）年7月で今年創立50周年を迎えます。全国的にも公文書館の嚆矢であり、藤沢地域の文書資料を収集・保存・公開する地域文

書館として、その意義は高く評価されています。

見学会では、文書館の方から案内と説明を受けて、書庫に保存されている状況や公文書の移管について教えていただき、書庫の狭隘と公文書を公開していく仕組みづくりが課題になっていることがわかりました。見学後に、『基本構想』が構想する立地場所に行きましたが、そこは境川に直近の自然堤防上の場所でした。

今、藤沢市文書館に求められていることは、所蔵資料の公開と後世に保存していくための適地です。文書館が本来果たすべき役割と目的にかなった立地条件を備え、且つ物理的に増加し続ける文書館資料を長く収納保管していくための適切な広さが確保され、今後も文書館機能のさらなる充実が図られること、これが藤沢市文書館の移転を考える場合には譲りがたい条件なのではないでしょうか。

結びに、当日は藤沢市文書館の方々より、丁寧な説明と案内を受けたことに感謝して擱筆いたします。



藤沢市文書館のデータベースへの期待

中村 智子

私は文書館の資料については、横断検索か同じデータベースで所蔵先を示すだけでもいいので、図書館と同じポータルサイトで検索できるようにしてほしいと思っています。

例えば、福岡県立図書館や福井県立図書館などの郷土資料（史料）の検索、複合施設としては山形県の遊学館などをモデルにしたら良いなと思って今まで発言してきました。（編集注・本誌4頁文献紹介中の「まつサーチ」もこのモデルに該当か。）

詳細蔵書検索：福岡県立図書館

(pref.fukuoka.jp)、福井県立図書館・文書館・文学館・若狭図書館学習センター）総合ページ (fukui.lg.jp)、フロアガイド | 山形県生涯学習センター「遊学館」 (gakushubunka.jp)

できることとできないことがあるかとは思いますが、まずは藤沢市民が藤沢市文書館まで足を運ばずとも、家で検索や研究に使えるものにしていただきたいと思います。

おもな内容

「考える会」、藤沢市文書館見学会……………1
散歩道 海外ボランティアの会、上川外相に感謝状……………2,3
文献紹介……………4

DJILレポート No.134+135 合併号 20240331

あしあと/活動……………5
巻末随想①肩痛②Gadoさんの古文書③FB画像……………6

【アーキビストの散歩道】

上川外相に感謝状贈呈 海外アーカイブ・ボランティアの会の活動

上川陽子外務大臣は期待の星！

11月末から12月1日にかけて、久しぶりに全史料協全国大会に参加した。遠くから参加のアイさんと都内に投宿、秋の夜長を語った。2009年から海外アーカイブ・ボランティアの会で活動を共にしてきた「戦友」アイさん。特に意気投合したのは、女性の社会進出のことだ。共に卒業してからずっと、アーカイブにかかわり、定年などとっくに過ぎた今もジュネーブでのアーカイブ・ボランティア活動に参加している。2009年開始のジュネーブのUNHCRアーカイブ・ボランティア活動では、国際機関に働く女性が男性を押しよけるような仕事ぶりであることを、この15年肌で感じてきた。日本の女性は比べるとまだ活躍の場が限られている。その中で「上川外務大臣は、期待の星だ」と我らは意気投合、何とかこの思いを伝えられないかと夢を膨らませた。

この気持ちを伝えたい

考え付いたのが感謝状の贈呈。2023年ジュネーブでの海外アーカイブ・ボランティアの会活動は、第8代UNHCR高等弁務官緒方貞子資料の箱入とフォルダ収納作業だった。これは外務省の拠金により前年までに予備調査が終了していたので実施となったものだ。とすれば、外務大臣上川陽子氏にこのことについての感謝を伝えよう。だが、外務省からの支援金拠出は2021年だから、上川さんの任期とは時期がずれてる。もっと時期は遡るが2009年成立した公文書管理法のことも、上川さんが初代公文書管理担当大臣として、すべての政府各府省庁の書庫を視察したことも、併せて感謝しようではないか。夢は膨らんだ。

メール「感謝状を贈呈致したき件」

数日後「感謝状を贈呈致したき件」で上川事務所宛メールを発信したところ、ほどなく電話連絡「感謝状の贈呈はお受けします。これは第1報ということで！」、とても嬉しかった。

外務省担当者とのやり取りで日程調整

その後、外務省のUNHCR担当部署からメールが届いた。当方贈呈予定の感謝状受取は外務省の業務、外務大臣との面会を設定、歓談時間は15分くらい、さらに日程調整、人物調査等のやり取りが続いた。面会日程が決まりかけたとき、外相の1月前半2週間の外遊日程が公表された。こうして、上川外相表敬は1月22日夕方17時40分から55分までの15分間に決定した。



海外アーカイブ・ボランティアの会による上川外務大臣表敬

外務省 国際協力局 緊急・人道支援課 令和6年1月22日付

1月22日、午後5時40分から約15分間、上川陽子外務大臣は、海外アーカイブ・ボランティアの会による表敬を受けたところ、概要は以下のとおりです。

1. 冒頭、同会の小川千代子会長から、緒方貞子国連難民高等弁務官在任当時の資料整理に関する日本政府からUNHCRへの支援、及び公文書管理分野における上川大臣の貢献に対する感謝状が贈呈されました。
2. 上川大臣からは、感謝状に対する謝意を述べるとともに、ボランティアとしてUNHCRの資料整理を支援している同会の活動に敬意を表すとともに、歴史的に重要な記録が整理・公開されることを通じて、国際社会においてUNHCRの重要性や日本の

貢献への理解が深まることを期待している旨述べました。また、初代の公文書管理担当大臣として公文書管理制度の整備に尽力した自らの経験に触れつつ、外務省においても時を置く記録を守り、利用を促進することに取り組んでいる旨述べました。

3. これに対して、小川会長から、公文書管理の分野においても、上川大臣には今後も大いに活躍していただきたく、応援していることをお伝えしたいとの発言がありました。

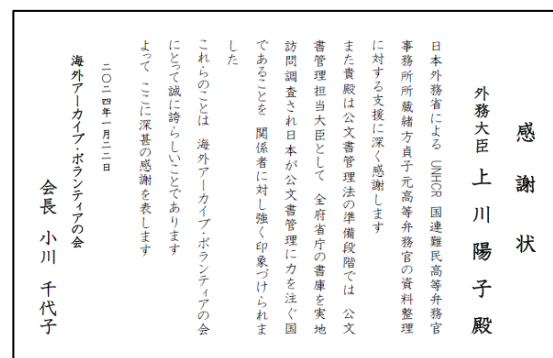
【参考】「海外アーカイブ・ボランティアの会」
海外アーカイブ・ボランティアの会は、ボランティア活動を通じて海外国際機関の資料がアーカイブとして公開できるよう、その整理を支援している団体。

1月22日、外務大臣表敬

当日は少し早めにミキコさんと共に外務省東入口に到着し、ほどなく出迎え担当者が我々の案内のため東入口までやってきた。この方に連れられ上層階の大臣接見室へと向かう。接見室に入る前に手前右の控室で接見準備。服装を整えた。荷物はそこに置くように、大臣にはこのように話すように、と担当者から口上をその場で教えられた。私はこの口上を覚えられず、超緊張した。どうしよう、そんな口上など言えるのだろうか(汗)。

大臣に出迎えられて接見室へ

まもなく大臣室へと案内された。上川大臣は接見室の入口で国旗を背に我々をお出迎え。そこで私は感謝状の趣旨を述べ、大臣に手渡した。その時、プ



レスの人々が構えていたカメラが一斉にシャッターを切った。大臣と共に私たちもフラッシュを浴びていた。ワッ。

上川大臣との歓談

次に接見室のソファに移動、大臣は準備の書面を見ながら歓迎の意を表された。私はUNOG所蔵の1933年3月付日本政府が国際連盟脱退通告の電報オリジナルの存在や、海外アーカイブ・ボランティ

アの会 2009 年以來の UNHCR における資料整理ボランティア活動について紹介した。2023 年の緒方資料整理には現地の日本人留学生も参加したと紹介したところ、上川大臣は、そういう後進を大いに育成してほしい、と言われた。同感であった。

また 2009 年に記録管理学会が上川大臣に特別賞を贈呈したことを大臣は良く記憶しておられた。これもうれしかった。これから先、上川さんにはこの分野でも大いに活躍していただきたいと申し上げ、会見は終わった。

☆☆☆

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆■
●通い猫アルフィーの奇跡

どこでこの本の紹介を見たのか、もう覚えていない。しかし、表紙に登場した灰色ネコのアルフィーの絵がうれしくて、思わずアマゾンでポチったのだから、FB か、する主役は、灰色ネコのアルフィー。それまで溺愛してくれていた飼い主のお婆さんが亡くなって、飼い主がいなくなり、路頭に

迷いつつ新しい飼い主を「開発」するアルフィーの、人間観察と戦略が素晴らしく面白い。読み始めたらずめられない。面白すぎてネコ好きの仲間にも読ませたくなった。それで、数冊をアマゾンで注文して、読ませたい友人に送り届けた。アルフィーのせいで読みかけていた緒方貞子の博士論文が読めなくなってしまったという「苦情」も届いた。最近是我が家の黒猫ヤマトがアルフィーに見えてきた。レイチェル・ウェルズ(著) 中西 和美(翻訳) 文庫本 384 頁 2015 年 9 月発行 ハーパーBOOKS 897 円+税 ISBN-10:4596550042 ISBN-13:978-4596550040

■児玉幸多監修『くずし字解説辞典』

50 年ほど昔、亡父から贈られたものがあるはず、持っていたはずだが見つからない。やむなく、取急ぎ Amazon 古書で購入した。届いたのはなんと初版の箱入上製本、B5 判 400 頁、昭和 53 年発行、近藤書店、東京。定価 3000 円を約半額購入。

▼『東京大学 150 年史編纂室通信』第 1 号

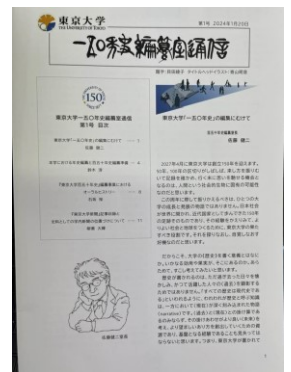
見慣れない発信者から A4 茶封筒、出てきたのは『東京大学 150 年史編纂室通信 第 1 号』。

直後に外務省 HP に写真記事掲載！

外務省を出てアイさんに電話した。「もう外務省の HP に写真が出てる！」との指摘。すぐに消されるかと思っただが、3 月 18 日現在外務省 HP にはまだ掲載されている。文末には『海外アーカイブ・ボランティアの会』を国際活動団体と紹介する一文も加えられていた。これはとてもありがたい評価をいただいたと感じている、外務省担当者の皆様へはきめ細かいご配慮に深謝であった。(小川千代子)

●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●

1977 年が東京大学創立 100 年で 100 億円募金をぶち上げたのは、遥か 50 年前のことになったと改めて思う。150 年を迎えるに当り、今度は 150 年史を編纂する企画があり、編纂室が設けられたと知った。百年史編集室は昭和 50 年 4 月 1 日に発足、東大安田講堂正面から見て 3 階、左翼の部屋が編集室であった。そこに 12 年勤務し、東大百年史制作ではまだ珍しかったその頃中性紙の採用を提案したことを思い出す。2027 年に創立 150 年を迎える東京大学、150 年



史は、どんなものになるのだろうか。往時の編集室員であった Y 氏がこの 150 年史編纂にも関わっていると聞く。百年史は厚さ 10 センチほどの上製本 10 冊を刊行した。今度はそんな大部のものを目指すことなく、現代技術を土台にコンパクト且つ使いやすい 150 年史を 2027 年に間に合って刊行される予定とのこと。楽しみである。

■村石正行『検証 川中島の戦い』

著者村石正行氏は長野県立歴史館文献史料課長、つまり長野県公文書館長相当の認証アーキビストである。筆者は共に松本市文書館の会議の委員ということで知己を得た。24 年 3 月の会議の際、本書をいただき、帰途の車中表紙を開いた。その冒頭には、現代世界が綴られている。これにはハツとした。



確かに本書の表題にある通り「検証」するならその基盤は現代に置かれるべきだ。著者村石氏はその通り、ご自身の視点を現代に置き、そこから過去の史実を記録に基づき一つずつ吟味していく。その記述が素晴らしい。どう素晴らしいかという、現代にいる読者が、同じ場所に過去の営みがあったことを現代との比較によって把握できるような記述なのである。

失礼ながら、大河等の時代劇では、視聴者をいきなり300年前、500年前、1000年前の社会空間に放り込む。その時代の知識がない視聴者の無知にはお構いなしだ。だから面食らう。

これに対し、本書では現代人の読者が、著者が綴ろうとする過去へと、穏やかに礼儀正しく誘われる。この配慮、優しさが私にはとても心地よく、ありがたい。未知の過去情報を現代の知識を用いて解き明かす、これぞ本書のタイトルにある「検証」そのものだと感じた次第。B6判 236頁、2024.3 発行、吉川弘文館歴史文化ライブラリー588、東京、定価 1700円+税

●青木玲子・赤瀬美穂著『女性と図書館 ジェンダー視点から見る過去・現在・未来』

図書館史における女性に関する記述の少なさに



について、本書冒頭第1章「はじめに」の後方にある次に引用する記述からは、著者が考える「ジェンダー視点からみる」図書館とはどのような存在なのかがよくわかる。

【よく「おんな子ども」と一括りにされることがあるが、(中略) 児童

サービスや児童閲覧室の設置については多くの図書館が(図書館の年史出版物等において)簡単ながら記述していた。(中略) しかしながら、女性へのサービスや女性が読む本、女性利用者や女性図書館員に関する記述は、時代的な制約もあり、愕然とするほど少なかった。明治から昭和戦前期までの図書館は男性の職場であり、利用者として想定されていたのも、おもに男性だった(後略)、つまり人口の半分を占める女性は図書館の利用者としても、職員としても想定外の存在だった、というところに、本書がま

とめられた本心が見えてくる。

本書が描く図書館とジェンダーの視点のありようは、日本ではおよそ100年前の日常の風景であったことをきちんと把握せねばならない。併せて、今日もなお、中東イスラム世界では女性が教育を受けることを妨げるような社会通念がまかり通っていることをきちんと把握し、外国の話としてではなく、女性一般に共通する自分事としてのジェンダー問題ととらえ、その克服の方法を世に問うべきだと考えさせられた。

日本の文書館に働く女性たちの専門性に対する労働環境の大きなひずみも、同じ問題として捉え、改善を図る必要があると強く感じた。指定管理制度の下で広がっているらしい日本の図書館員高学歴ワーキング・プアの現状も、もっと真剣に調査が行われるべきであろうし、それを踏まえた大幅な改善を図るべきと思う。

今日の図書館や文書館に働く非正規雇用の専門家(の女性)へのエールといえよう。この問題へのより広汎かつ強力な社会的活動や動向報道が大きく期待される。B6判 271頁、2024.2 発行、日外アソシエーツ<図書館サポートフォーラムシリーズ>、東京、定価 2700円+税

■「まつサーチ」松本市文書館も地域資料検索



松本市文書館では3月1日から、松本市の地域資料をまとめて検索できる「まつサーチ」の運用を開始した。(URL: <https://matsumoto.calil.jp>)

これは松本市内の文化資源情報を、横断検索できる便利な検索サービス。松本市文書館の目録で探しても資料が見つからなくても「まつサーチ」から他館の所蔵資料等を見つかる場合もある。活用されたい。(本誌1面中村記事参照)

☆☆☆

【まつサーチ横断検索対象機関一覧】

- 松本市美術館コレクション
- まつもとの文化財
- 松本まるごと博物館収蔵品
- 国会図書館デジタルコレクション(インターネット公開)
- 松本市図書館
- 全国遺跡報告総覧(松本市が発行した資料)
- 松本市文書館収蔵目録検索(3月1日運用開始)

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJILレポート No.134 +135 合併号 20240331

A4判 6頁 PDF (本誌)

URL:www.djichiyoko.com◆海外アーカイブ・ボランティアの会による上川外務大臣表敬 外務省 HP「[海外アーカイブ・ボランティア](#)の会による上川外務大臣表敬 | 外務省 (mofa.go.jp)」(本誌 2 頁画像で引用)

▼会員制メルマガ・ナスの日通信 1月号 20240117 ; 3月号 20240317 (本誌 5-6 頁「肩痛を患う」に再掲)

DJIL 国際資料研究所の主な活動

2023 年 12 月 16 日～2024 年 3 月 31 日

<執筆>

DJIL レポート No.134+135 合併号 20240331 A4判 6 頁 PDF (本誌)

ナスの日通信 1月号 20240117 ; 3月号 20240317 (本誌巻末随想①) メルマガ配信

<出講>

12月 19,26日、1月 9,16日 東京学芸大学「博物館資料保存論」東京

2024年 2月 18日「外務大臣表敬と海外アーカイブ・ボランティアの会の仕事」辻堂青年未来座談会

<参加>

1月 20日 Gado さんのファミリーヒストリー古文書解説会 ミキコさんと 横浜 (本誌巻末随想②)

2月 11日 市長選立候補者個人演説会 市民の家

2月 13日、3月 15日オンライン打合、2月 15日、3月 26日 寒川文書館運営審議会、寒川文書館会議室、神奈川県

2月 15日 運転免許更新手続 藤沢警察署、神奈川県 (交付は 3月 21日)

2月 16日 全史料協関東部会研究例会 神奈川県職員研修センター、横浜市

2月 17日 町内会防災豚汁の会、東海岸 3丁目小川宅、33名参加、藤沢市

2月 24日、3月 23日 東海岸 3丁目町内会役員会東海岸市民の家、藤沢市

3月 2日 防災講演会、講師小川雄二郎、藤沢市長後市民センター

3月 2日 防災講演会 藤沢市辻堂市民センター

3月 7日 松本市文書館運営評議会、松本市文書館、松本、長野県

3月 21日 飯沢忠氏葬儀 日本基督教団代々木教会

3月 27日 川越小江戸散策他、町内会バス旅行、埼玉県

<見学>

1月 24日藤沢市文書館見学会 藤沢市文書館 同裏書庫 新館地下書庫;藤沢市文書館を考える会主催 12名参加 (本誌 1 面見学参加記)

3月 7日 松本市文書館内の移管済重要歴史公文書整理状況

<その他>

1月 8,15,22,29日 2月 5,12,19,27日、3月 4,11,18,25日ラウラ先生とル語お稽古ライ

1月 22日 上川陽子外務大臣表敬、海外アーカイブ・ボランティアの会から上川大臣へ感謝状贈呈、外務省大臣接見室、東京

2月 1日 頌栄短期大学ハウ資料室 同室アーカイブ整理のためのコンサルティング報告、御影

2月 2日 アイさんとランチ@小林 (おばやし) のランチ、神戸市

2月 9日 ミキコさんらとランチ、広場で藍染セーター購入、藤沢

2月 24日 カフェ曙 町内会役員会後、小松宅

3月 6日 モトコさんとランチ、甲府/木曾屋田楽定食 &花月泊、松本

3月 13日 ミズグチさんらとランチ、大船

3月 19日 ラウラ先生らとランチ、柏

3月 28日 トモコさんらとランチ、稲毛

<健康管理>

1月～3月 医療受診録 辻堂金沢内科クリニック 4回、つるしげ歯科 5回、ほしの眼科 2回、マリソル整形外科 5回、辻堂南口耳鼻科 1回、いわもと皮膚科 1回、藤沢徳洲会病院 (MRI 検査) 1回

■ 巻末随想

(1) ～肩痛を患う～

【肩に激痛！】

1月のある日、買い物から帰って、肩にかけていた重い買い物袋を下ろす時、バツッ！バツッ！と二回右肩に鈍い音がして、痛みが走った。しまった、と思ったがもう後の祭り。肩周りの腱が切れたらしく、痛みは治まらない。急いで近所の医者を受診したら、痛み止めの飲み薬をたくさん処方してくれた。それ以来、痛みを感じる時には迷わず痛み止めを服用することにした。

【地域包括支援センターから介護保険手続きへ】

鎮痛剤は日に 3 回か 4 回服用するが、薬が切れると自分でわかるほどいら立つ。これでは毎日が不快で困ったと知人に相談した。知人は介護保険で少し手伝ってもらえるよう、手続きしてみてもどうかと勧めてくれた。早速近隣の地域包括支援センターというところに出向いた。

センターでは痛めた肩が具合悪いから、何とか社会福祉的な家事等生活課題の手伝いを頼めないだろうか、と社会福祉士の男性に訴えた。男性は、

介護保険にかかわる支援を受けるための手続きを教えてください。

【クリニックで診察、リハビリ】

包括支援センターでの助言に従い、まず鎮痛剤を処方してくれたクリニックを訪ね、包括支援センターで介護申請の手続きを取ったことを伝えた。ドクターは鎮痛剤の追加処方と物療リハビリを薦め、x線写真の他、近隣の中核病院でMRI検査を予約してくれた。クリニックではドクターの指示により、遠赤外線です部を温めてもらった。この手当は快適だった。

翌週の理学療法士のマッサージ 40 分もカチカチになった肩甲骨周りへの穏やかな刺激が凄くよかった。次回マッサージ予約は 9 日後になった。担当理学療法士さんは人気者なのだろうか。

【MRI 検査で病院へ】まだ先の事と思っていた MRI 検査の日があつという間にやってきた。所定の手続きを済ませ、検査室に到着。MRI 検査はクリーム色無地の筒の中に身体をおさめて、ゴンゴン、ガンガン、ダダダという機械音に包まれて患部の輪切り写真を撮影するという説明。その音が激しいからヘッドフォンをつけさせてくれた。モーツァルトのクラリネット協奏曲が流れてくる。そこに説明された通りの「ゴンゴン、ガンガン、ダダダ」がかぶさる。音を遮断するヘッドフォンで音楽ナシ、の選択肢があればいい、と思いつらうちに、検査は終わった。所用時間 30 分程。着替えスペースはほかの人と時間差で共用。カゴの中には使用済の膏薬、このスペースにゴミ箱はない。これはとても不快だった。病院としては実に不衛生な印象(# °Д°)。数日後クリニックから結果が到着したと電話。これで検査関連終了。

【ケアマネさん来訪】次に、ケアマネさんの訪問があった。1 時間半くらいかけて、歯磨きできるか、爪切りどうしてるか等々の「生活課題」のチェック項目を記録していった。米とぎはできるかと聞かれて、あ、無洗米だからとがずに炊いてますと返した。これは、後から家族に笑われ、ケアマネさんは伝統的な家事を前提にできる出来ないについての質問する立場、斬新な工夫を聞きたい訳ではないとたしなめられた。それもそうだな。

【介護とか支援とか、個人的被災の自助共助公助】この時ひらめいたことは、しばらく使っていないか

った電動歯ブラシを買いなおすこと。これがあれば、左手でも歯磨きができそうだ。私の右肩腕の不具合と、そのための不機嫌をやり過ごす工夫は、まだまだ続きそうだ。あ、また肩痛い！

(2) ~Gado さんと古文書解読~

【ディディエの友だち Gado さん】

ジュネーブのディディエからメール、日本の友人 Gado さんがファミリーヒストリーで、古文書解読苦戦中、一度会ってほしいとのこと。そこでディディエとの共通の友人で近代日本史出身アーキビストのミキコに頼み、一緒に Gado さんと会うことにした。

【くずし字解読辞典、役に立つ】

この際古文書解読に不可欠なのは『くずし字解読辞典』。そこでアマゾンの古本で探し早速発注。届いたのは昭和 53 年の初版上製本だったので、結構感激(本誌 4 頁に文献紹介)。これを携え、Gado さんとの会見に臨んだ。

【古文書 20 頁、解読!】

素養があるミキコは、結構すらすらと解読する。でも苦戦の場面もあった。そこで筆者はミキコの指示に抛り、崩し字事典の音読検索で、該当文字を検索する。幸い該当文字を音読から検索する作業は何とかなったので、合計 3~4 文字の解読補助ができた。

ミキコは Gado さん持参の A3 コピー 20 頁の古文書を、約 2 時間ですべて解読した。凄い!

こうして Gado さんとの古文書解読の集いは終了した。Gado さん、オシャレな紳士でした。

(3) ~FB ネコの画像引用~

FB の猫同好会サイト見つけたゾ! 砂浜アート♥



うちのヤマトみたいな、お魚食べ過ぎネコ 🐟
アルフィーみたいで
カワイイ。 (ち)

画像出典:

